

2016.6.6

建交労秋田ダンプ支部執行委員会は6月4日に執行委員会を開催し、建交労県本部執行委員会が決めた下記の参議院選挙闘争方針でたたかうことを確認しました。

建交労秋田県本部執行委員会は7月10日投票の参議院選挙を前に、あらためて選挙闘争について原則を確認し、方針を示したいと思えます。昨年10月に決定した県本部の大会方針は、以下のとおりです。「選挙にあたっては、憲法19条が保障する思想・良心の自由や21条の集会・結社・表現の自由を行使し、徹底して参政権の行使を呼びかけます。」

「政党からの独立」は労働組合の原則の一つであり、建交労は綱領で組合員の思想・信条、政党支持・政治活動の自由を保障しています。一部労組のように特定政党支持を強要する方針はとらないことが基本的立場です。安倍政権は戦争法を強行し、破たんした大企業応援のアベノミクスと消費税大増税路線を突き進め、経済政策の失敗を世界経済の悪化にすりかえてそれを消費税増税の延期する理由に持ち出し、格差と貧困化政策をいっそうおしすすめています。労働者・国民にとって安倍政権が進めてきた悪政を許さないことが求められています。いま最も重要なことは、日本を戦争に巻き込む「戦争法」を廃止に追い込み、集団的自衛権行使容認の閣議決定を撤回して立憲主義を回復すること、個人の尊厳を守る政治の実現です。この点で大同団結することがとても大切です。

7月10日投票の参議院選挙では、全国32ある参院選一人区すべてで、民進党、日本共産党、社民党、生活の党の野党4党が候補者を一本化し、野党統一候補でたたかうことが実現しました。これは、昨年来、全国津々浦々で繰り広げてきた戦争法反対の市民の運動の力を背景にして生まれ、安倍政権打倒を正面にかかげた戦後初めてのとりくみです。

参議院秋田選挙区では、県本部執行委員会としてその目的に賛同した『あきた立憲ネット』も加わる野党（民進党、日本共産党、社民党）統一候補として松浦大悟氏が決まりました。松浦氏は民進党公認ですが、野党統一の候補者であることから私たちは建交労の綱領にしたがい、組合員一人ひとりの政党支持・政治活動の自由を保障しながら、県本部執行委員会として松浦氏を支持し、戦争法を廃止し、立憲主義の回復、個人の尊厳を守る政治の実現のため、力を尽くします。あわせてこの方針について支部や分会などの組織で話し合いなどをすすめて、組合員が納得のいくものにします。同時に、比例選挙もありますから、改憲阻止、立憲主義回復の世論づくり、棄権防止や政党選択についての判断材料を組合員に示すなどのとりくみもすすめます。

組合員みなさん。今回の選挙は、日本の将来を決する極めて重要な闘いです。いままで「どうせ変わらない」と選挙に無関心だった人も、今回は「変えることができる」ことに確信をもって、選挙に行きましょう！

2016年6月4日

建交労秋田県本部執行委員会

夜明け前の闇は深い

アメリカ大統領選挙も指名争いに決着がつき、候補者が決まりそうだ。民主党は初の女性大統領を狙うクリントンか。そして共和党はあの「異端」トランプに…。いただけない候補者トランプを選んでしまうアメリカ国民の闇の深さを感じる。それにしても、民主党の指名争いを終盤まで展開するサンダースの奮闘が痛快だった。民主的社会主義者を名乗る彼の主張が、若者の支持を得ている。

地球の裏側のウルグアイから頼もしいおじいちゃんがやってきた。世界で一番貧しい大統領と言われたホセ・ムヒカのスピーチが日本人の心をわしづかみにした。お金が好きな人たちには政治の世界から出て行ってもらう必要があるのです。お金が好きな人はビジネスや商売のために身を捧げ、富を増やそうとする。しかし政治はすべての人の幸福を求めるたたかい。政治が求めるべきは名誉なのです。

そして消費主義を憂い「私たち自身にリミットをつける」ことを推奨。もっと人生の時間を得ようと呼びかける。また、日本に来たことに感謝しつつ、日本人に「己のルーツを忘れていないか」と警鐘を鳴らす。さらに最大の無駄は毎分200万ドル消費される軍事費だと切り込んだ。やさしい語り口の中に心を揺さぶる言葉のちからを感じた。

アメリカでも、日本でも、そして地球の裏側でも何かが蠢きだしている。来るどこまで来た資本主義の矛盾、容赦なく襲いかかる格差と貧困の波。それと対峙し向き合おうとする民衆。面白いじゃないか。変革の時か。

先日、深夜のコンビニで「まんがでわかる資本論」を見つけた。読んでみるとシャープさはないものの、丁寧に「資本主義の解明」に努めている。あとがきには革命的な思想・哲学が盛り込まれた「資本論」をぜひ読破してほしいと呼びかける。

「明けない夜はない」「夜明け前の闇ほど深いものはない」とも言われる。世界が大きく変わろうとしている予感をしているのは私だけなのか。

飯田光徳 社会福祉法人「野の花福祉会」

